授業科目　聴覚障害Ⅰ演習

【担当教員名】	対象学年	2	対象学科	言語
山口富一	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

＜概要＞

難聴・言語障害の診断治療で欠くことのできない各種聴覚検査と言語検査ができるようになる。

＜学習目標＞

聴覚検査のための予備知識を理解するとともに聴覚検査の理論と実際について理解する。
各種聴力検査法を理解すると共に基本的聴覚検査ができる。特に純音聴力検査は確実にできるようになる。
聴覚障害に伴う言語やコミュニケーション障害の検査ができるようになる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	授業の進め方の確認。聴覚検査のための基礎知識を理解する。		ＡＢ合同講義
2	音の基礎知識とオージオメータについて理解する。取り扱い説明書の活用ができる。		ＡＢ合同講義
3 4	純音聴力検査（気道・骨道・マスキング）ができる。		ＡＢ別講義と実習
5 6	語音聴力検査を体験し、検査方法を理解する。		ＡＢ別講義と実習
7 8	インピーダンスオージオメトリーの理論と実際を理解し、検査ができる。		ＡＢ別講義と実習
9 10	聴覚・視覚・併用による音声受容評価ができる。		ＡＢ別講義と実習
11 12	乳幼児聴力検査（BOA.COR.遊戯聴力検査）を理解し、実際の検査ができる。		ＡＢ別講義と実習
13 14	発声発語検査の評価と指導を理解する。		ＡＢ別講義と実習

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他＞
教科書	聴覚検査の実際	日本聴覚医学会編	南山堂	1999年　¥3400E
参考書	言語聴覚療法シリーズ5聴覚障害Ⅰ－基礎編	山田弘幸他	建帛社	平成12年10月20日　¥2400E ISBN:4-7679-4505-4
その他の資料	必要に応じてプリント配布			

【評価方法】

出席・実習の態度・レポートから総合的に評価する

【履修上の留意点】

ＡＢと２グループに分け、各週で２時間続きの授業とする。
毎回レポート課題を課すので検査方法などは教科書を元に自分で調べておくこと。それを元に実習に入る。
機器の取扱説明書の活用など効率的に各種検査機器に習熟するように。